

アジア5カ国・地域の 牛乳類利用に関する調査

2020年6月8日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

新興国における食品市場は、経済発展と所得の向上を背景に、食生活の多様化・欧米化が進行し、市場規模も大きく拡大している。

なかでも、東南アジア諸国においては、近年、食品分野における外資系企業の新たな事業展開もあり、そのスピードは急速である。一方で、都市化による生活様式の変化や都市部と農村部との貧富の格差拡大も同時に進んでおり、栄養の過剰と不足、栄養成分のアンバランスなど、栄養の三重負荷と言われる問題も顕在化し、栄養や健康に対する意識やニーズも高まっている。

この調査は、近隣地域であり文化的類似性を持つアジアの食生活や栄養・健康問題のニーズに貢献することによって、わが国の酪農乳業の市場の拡大と長期的成長性を確保するための可能性を模索する観点から、東南アジア諸国での牛乳乳製品の市場性や消費者の牛乳乳製品に対する意識を把握することを目的として、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、台湾の5カ国・地域で、20～30歳代の若い層を対象に、牛乳類の利用動向に関する調査を実施したものである。

2020年6月

一般社団法人 Jミルク

調査地域

- ベトナム／タイ／マレーシア／インドネシア／台湾

対象者属性

- 20歳代～30歳代／男性・女性

サンプル数

- 各国300ss（計1,500ss）

調査手法

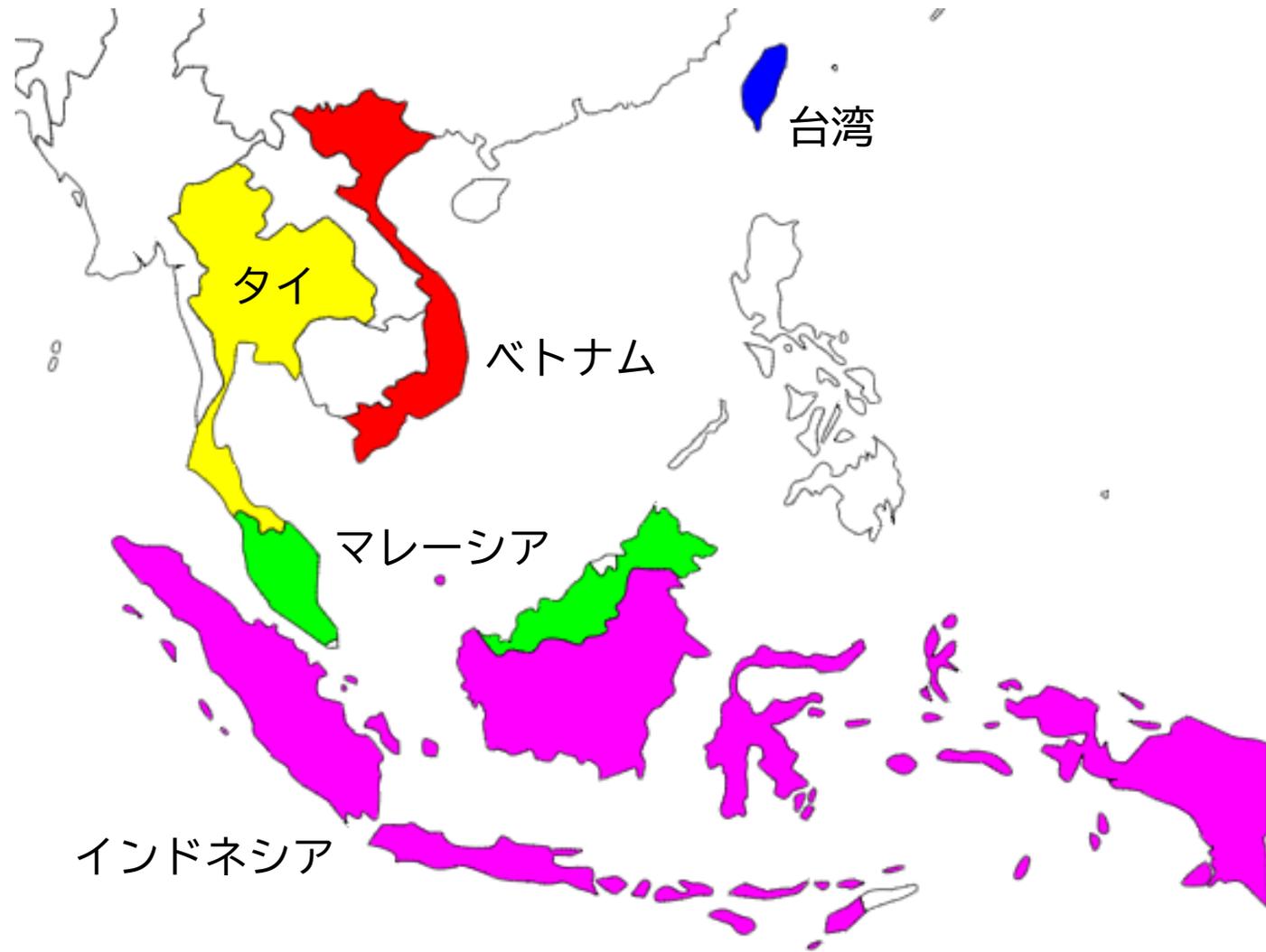
- インターネットを活用した調査

調査時期

- 2019年12月27日 ～ 2020年1月9日

割付

- 各国、性別年代（5歳刻み）で均等配分



本資料に用いられる語句の説明は以下のとおりである。

●牛乳類：

成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪牛乳、無脂肪牛乳、加工乳、乳飲料、甘味がついた白い乳飲料や、コーヒーやフルーツ等の香りや色や甘味がついた乳飲料、等

●味付けしていない（味なし）牛乳：

甘味などの味付けや、コーヒーやフルーツ等の香りや色を付けていない牛乳類（一般的な成分無調整牛乳や成分調整牛乳、高脂肪・低脂肪の牛乳、加工乳、カルシウムやビタミン類を強化・ラクトースフリーなどの乳飲料を含む、牛乳類）

●味付き牛乳：

甘味が付いた白い乳飲料や、コーヒーやフルーツ等の香りや色や甘味が付いた乳飲料、等

1. 牛乳類の購入・飲用 … (P. 7 - 19)

- ◆ 牛乳類の購入頻度
- ◆ 味付けしていない牛乳の購入頻度
- ◆ 牛乳類の飲用頻度
- ◆ 味付けしていない牛乳の飲用頻度
- ◆ 牛乳類の飲用の増減意識
- ◆ 味付けしていない牛乳の飲用の増減意識
- ◆ 味付けしていない牛乳の利用方法
- ◆ 牛乳類の飲用タイミング
- ◆ 牛乳類の飲用場所
- ◆ 味付けしていない牛乳を初めて飲んだ時について
- ◆ まとめ (1)

2. 牛乳類への意識 … (P. 20 - 27)

- ◆ 牛乳類への意識について
- ◆ 牛乳類のおいしさについて
- ◆ 牛乳類が栄養に優れているかについて
- ◆ 牛乳類で優れていると思う栄養について
- ◆ 乳糖不耐症への意識について
- ◆ まとめ (2)

3. 国産優先意識と酪農家への共感意識 … (P. 28 - 31)

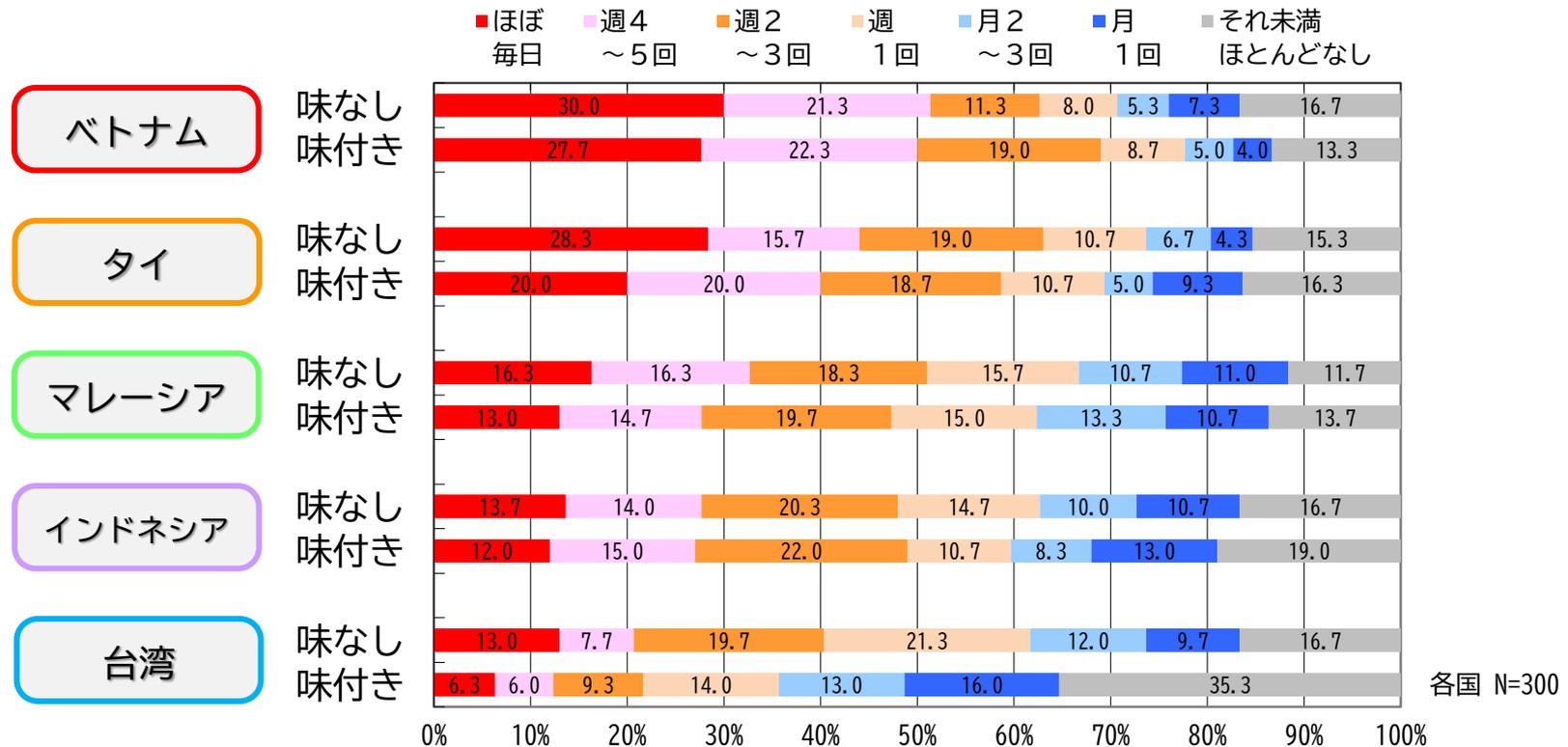
- ◆ 牛乳類に関する国産優先の意識について
- ◆ 酪農家への共感意識について
- ◆ まとめ (3)

1. 牛乳類の購入・飲用

◆ 牛乳類の購入頻度

【質問】

いま現在、あなたご自身は家族で飲むものを含めて、味付けしていない牛乳／味付き牛乳を、それぞれどれくらいの割合で購入していますか。

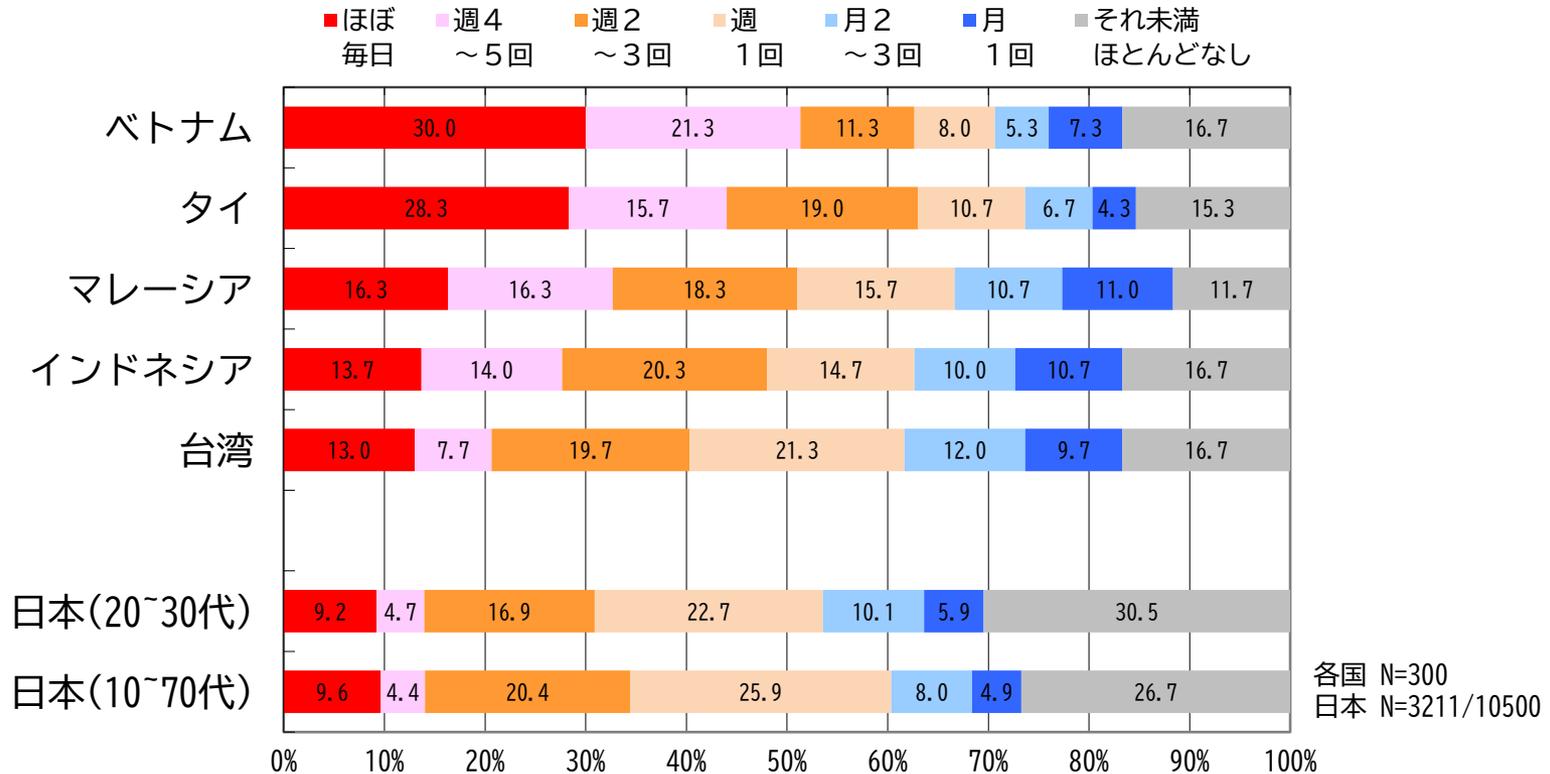


- ✓ 5カ国・地域いずれにおいても、味なし牛乳類の購入頻度が高くなっている。
- ✓ なお、タイと台湾は、他の国に比べて、味付き牛乳の購入頻度が味なし牛乳の購入頻度に対して低い傾向にある。
- ✓ 一方、ベトナムでは、味なし牛乳と味付き牛乳との購入頻度が同程度である。

◆ 味付けしていない牛乳の購入頻度

【質問】

いま現在、あなたご自身は家族で飲むものを含めて、味付けしていない牛乳をどれくらいの割合で購入していますか。

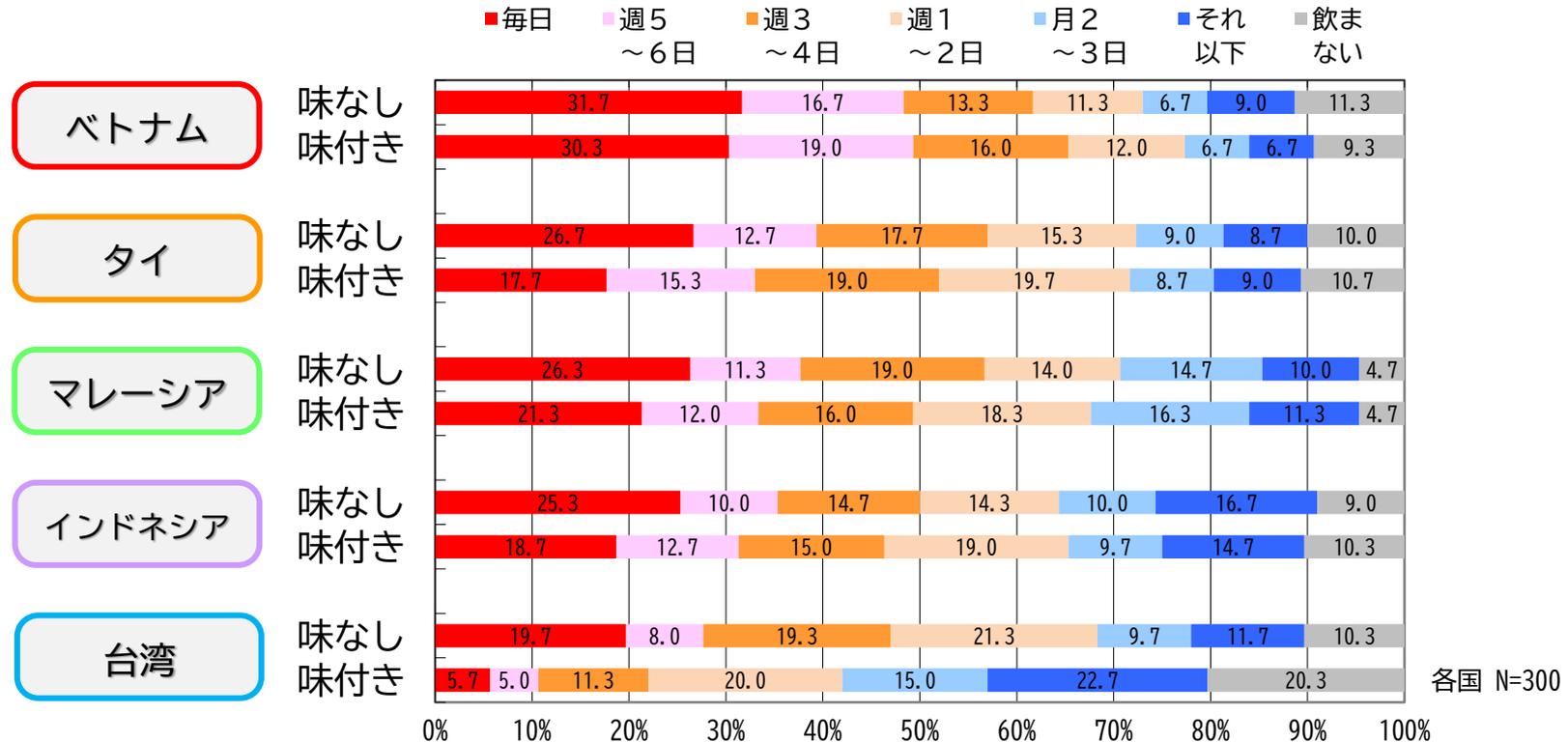


- ✓ 味付け牛乳の購入頻度が最も多いのはベトナムであり、最も少ないのは台湾である。ただし、ベトナム・タイと他の国とでは、「ほぼ毎日」購入している割合の差が大きい。
- ✓ また、5カ国・地域のいずれも、日本より購入頻度が高くなっている。

◆ 牛乳類の飲用頻度

【質問】

いま現在、あなたご自身は、味付けしていない牛乳／味付き牛乳を、それぞれどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

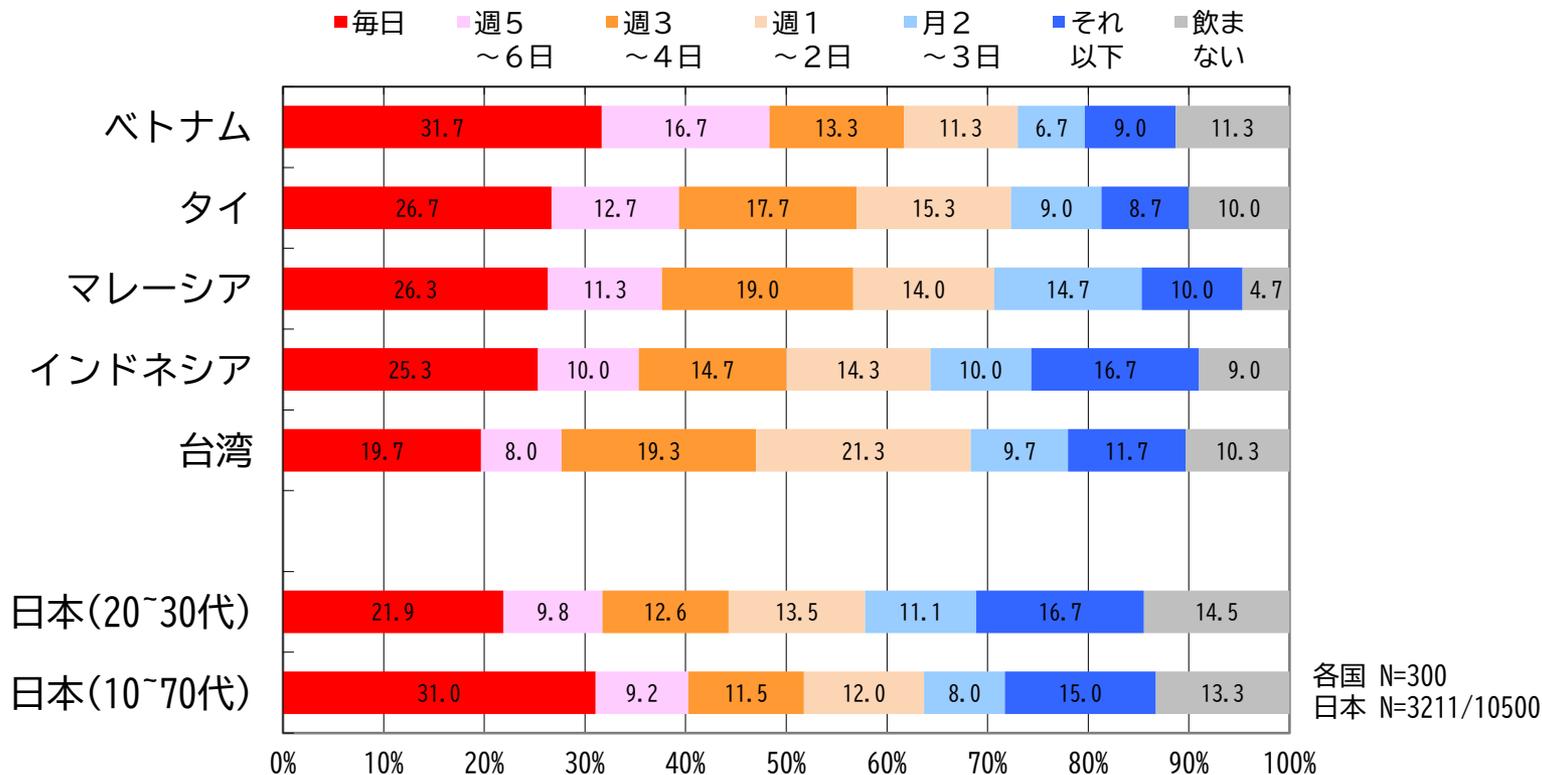


- ✓ 5カ国・地域いずれにおいても、味なし牛乳の飲用頻度が高くなっている。
- ✓ ベトナムでは、他の国と比べて、味付き牛乳、味なし牛乳のいずれも飲用頻度が最も高くなっているが、これは、ベトナムにおいて、依然として学校給食の普及が進んでいないことや、フレーバー・甘味などの商品が多く販売されていること、等と関連している可能性がある。

◆ 味付けしていない牛乳の飲用頻度

【質問】

いま現在、あなたご自身は、味付けしていない牛乳をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

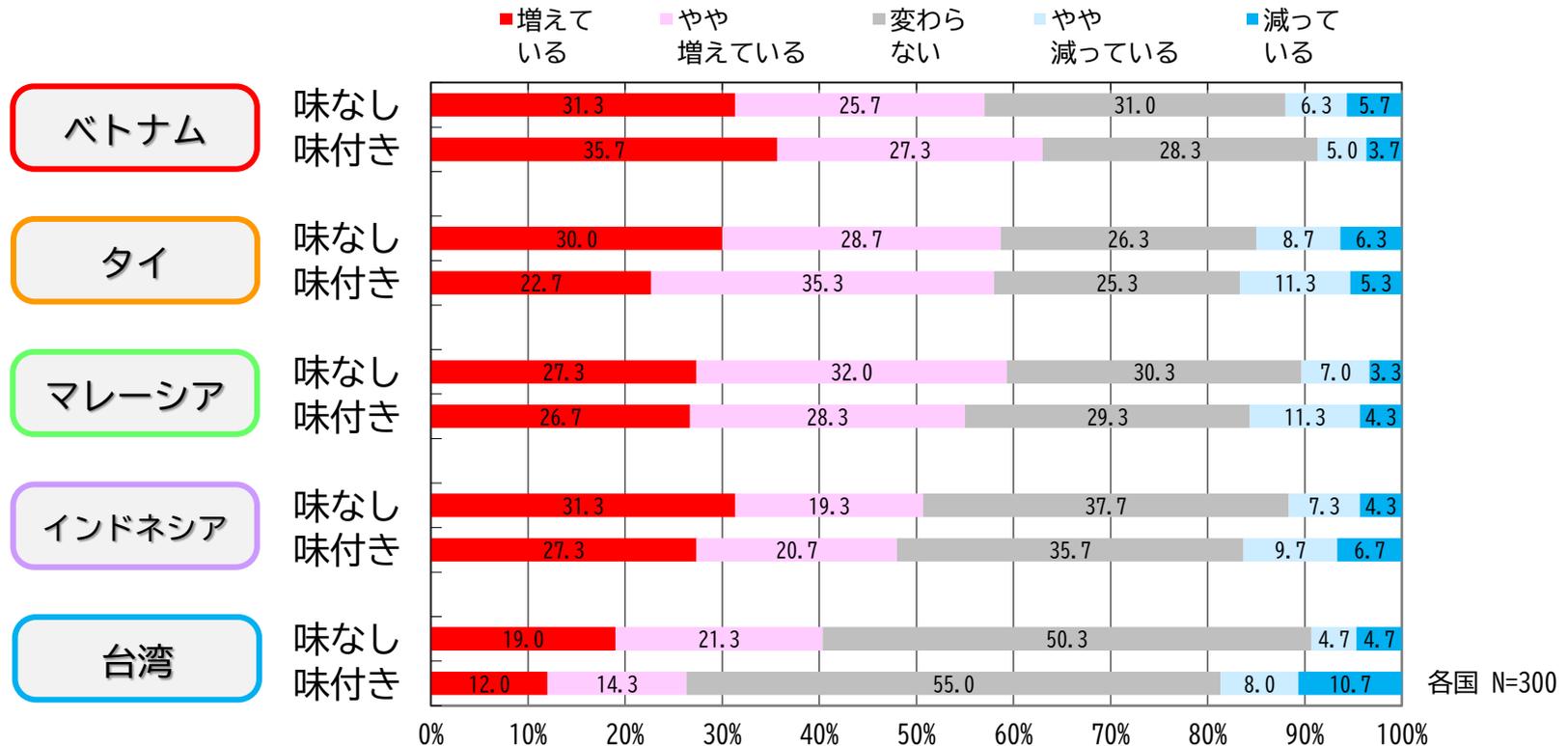


- ✓ 5カ国・地域のデータが20~30歳代を対象にしたものであることから、日本の同年代の数値と比較すると、各国の飲用頻度は、そのほとんどが日本の同年代よりも多く、ベトナムについては日本全体の飲用頻度よりも高くなっている。

◆ 牛乳類の飲用の増減意識

【質問】

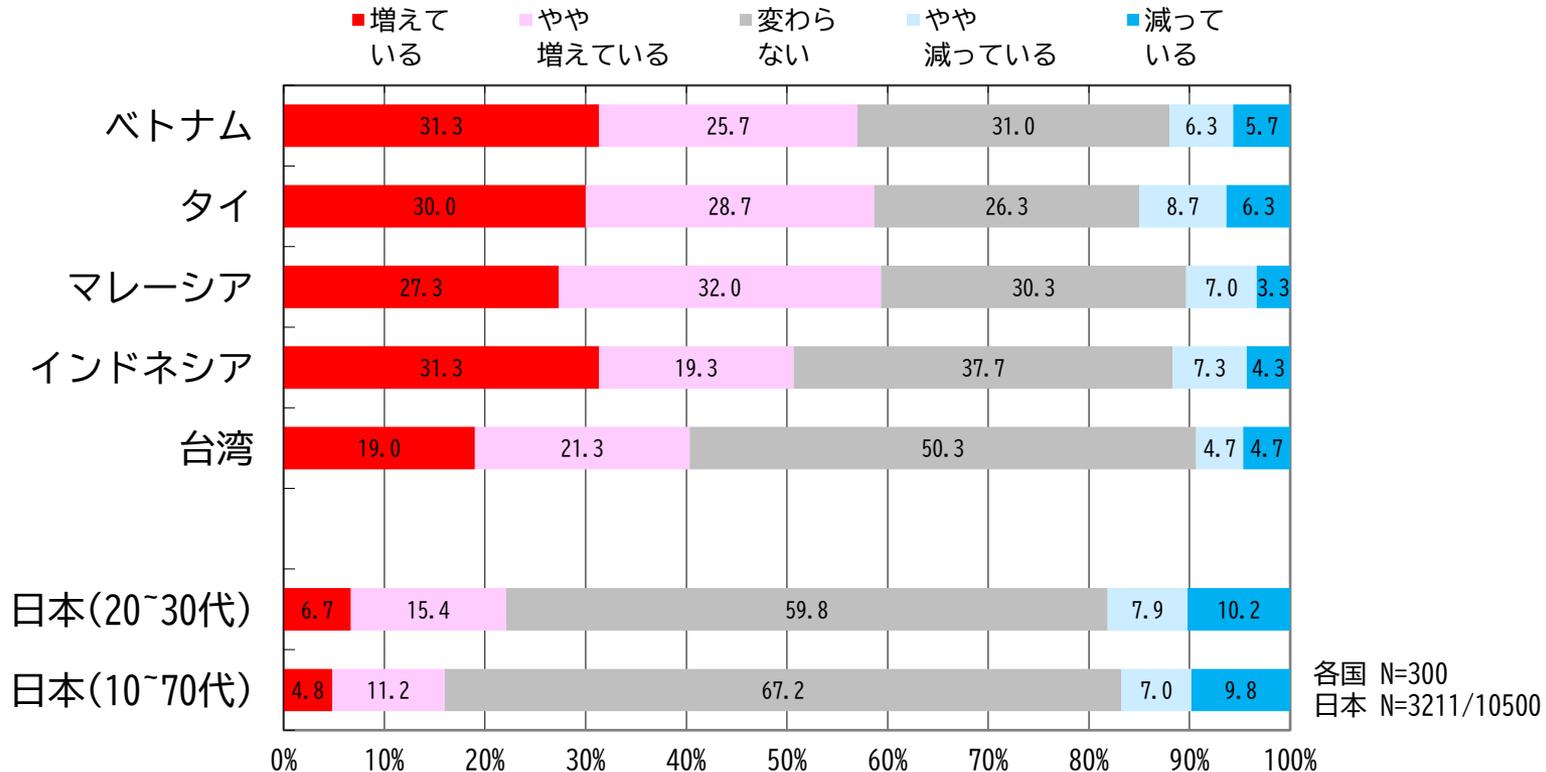
いま現在、あなたご自身では、味付けしていない牛乳／味付き牛乳を飲む量や回数が、この1年で増えたり減ったりしましたか。



- ✓ 5カ国・地域のなかで、ベトナムだけは味付き牛乳の飲用増加意識が高くなっている。
- ✓ タイ・インドネシア・台湾では、味付き牛乳に比べて、味なし牛乳の飲用を増やしている傾向がある。特にタイでは、肥満や糖尿病などの生活習慣病患者が増加しており、味なし牛乳の飲用への意識が高まっていると考えられる。

◆ 味付けしていない牛乳の飲用の増減意識

【質問】
いま現在、あなたご自身では、味付けしていない牛乳を飲む量や回数が、この1年で増えたり減ったりしましたか。

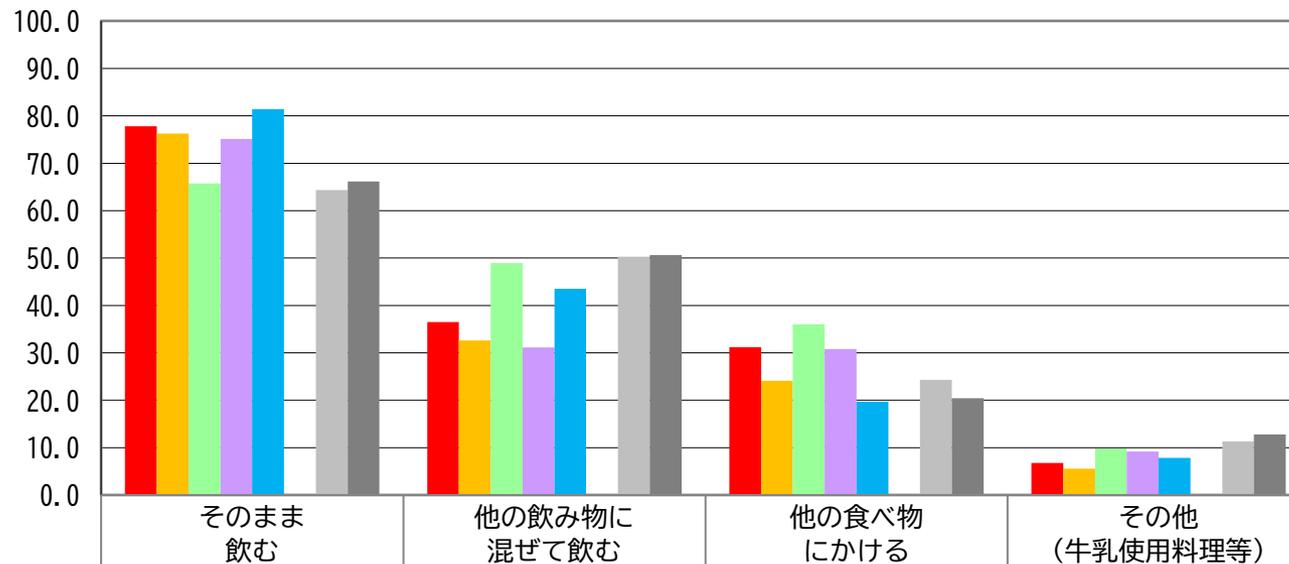


- ✓ 味なし牛乳の飲用増加意識は、ベトナムとタイが高い。
- ✓ その一方で、増加意識が最も低いのは台湾であり、減少意識が最も高いのはタイである。ただし、いずれの国も日本よりは増加意識が顕著に高く、減少意識は少ない。

◆ 味付けしていない牛乳の利用方法

【質問】

いま現在、あなたが「味付けしていない牛乳」を利用するときの方法をお知らせください。



■ ベトナム	77.8	36.5	31.2	6.8
■ タイ	76.3	32.6	24.1	5.6
■ マレーシア	65.7	49.0	36.0	9.8
■ インドネシア	75.1	31.1	30.8	9.2
■ 台湾	81.4	43.5	19.7	7.8
■ 日本(20~30代)	64.4	50.3	24.3	11.3
■ 日本(10~70代)	66.2	50.6	20.4	12.8

ベトナム N=266
 タイ N=270
 マレーシア N=286
 インドネシア N=273
 台湾 N=269

日本 N=2747/9105

- ✓ 5カ国・地域ともに、味なし牛乳の利用は「そのまま飲む」が最も多く、日本のそれよりも多くなっている。また、「他の飲み物に混ぜて飲む」の比率は、日本よりも低くなっている。
- ✓ ただし、マレーシアは「そのまま飲む」が少なめであり、「他の飲み物に混ぜて飲む」「他の食べ物にかける」が多めになっており、これらの傾向は日本の結果と近い。

◆ 牛乳類の飲用タイミング

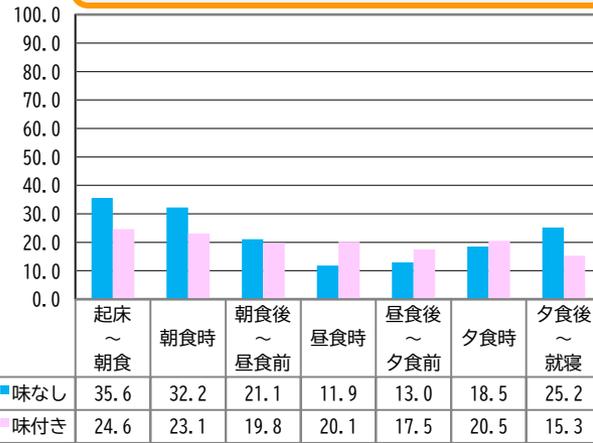
【質問】

いま現在、あなたご自身が、味付けしていない牛乳／味付き牛乳を飲むことのあるタイミングをお知らせください。

ベトナム



タイ



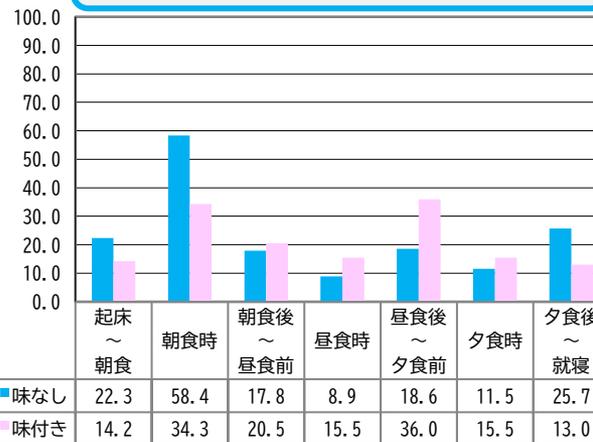
マレーシア



インドネシア



台湾



ベトナム N=266/272
 タイ N=270/268
 マレーシア N=286/286
 インドネシア N=273/269
 台湾 N=269/239

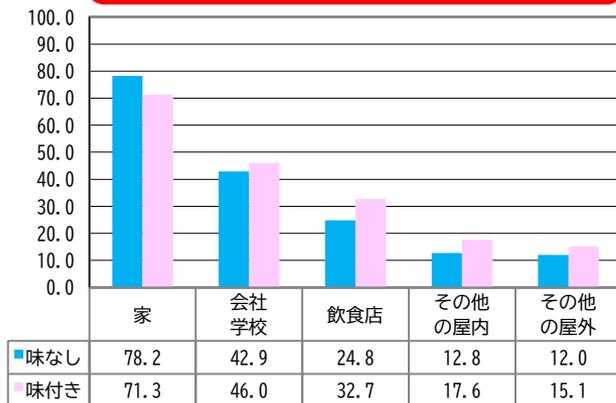
- ✓ いずれの国でも、「起床～朝食前」「朝食時」「夕食後～就寝」では、味なし牛乳の方が味付き牛乳よりも多く飲まれている。その一方で、「朝食後～昼食前」「昼食時」「昼食後～夕食前」「夕食時」では、味付き牛乳の方がよく飲まれることが多い。

◆ 牛乳類の飲用場所

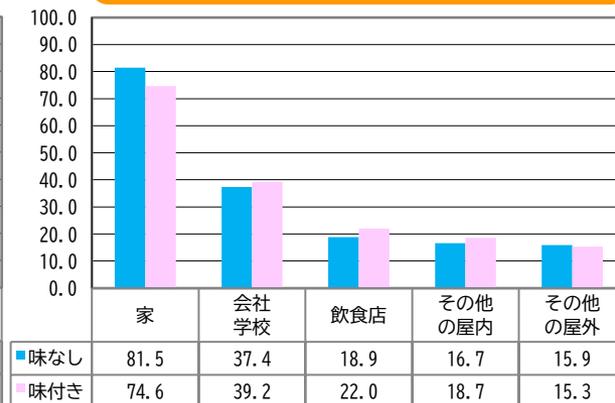
【質問】

いま現在、あなたご自身が、味付けしていない牛乳／味付き牛乳を飲むことのある場所をお知らせください。

ベトナム



タイ



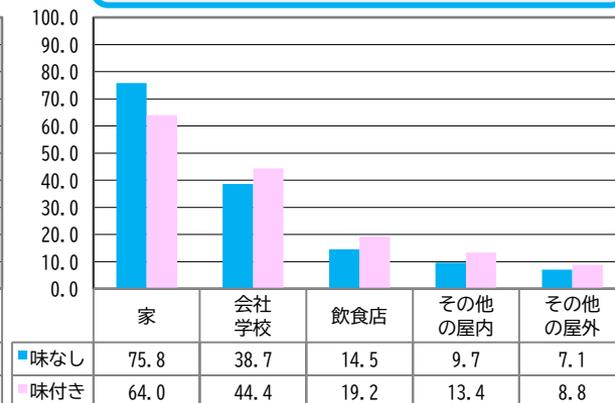
マレーシア



インドネシア



台湾



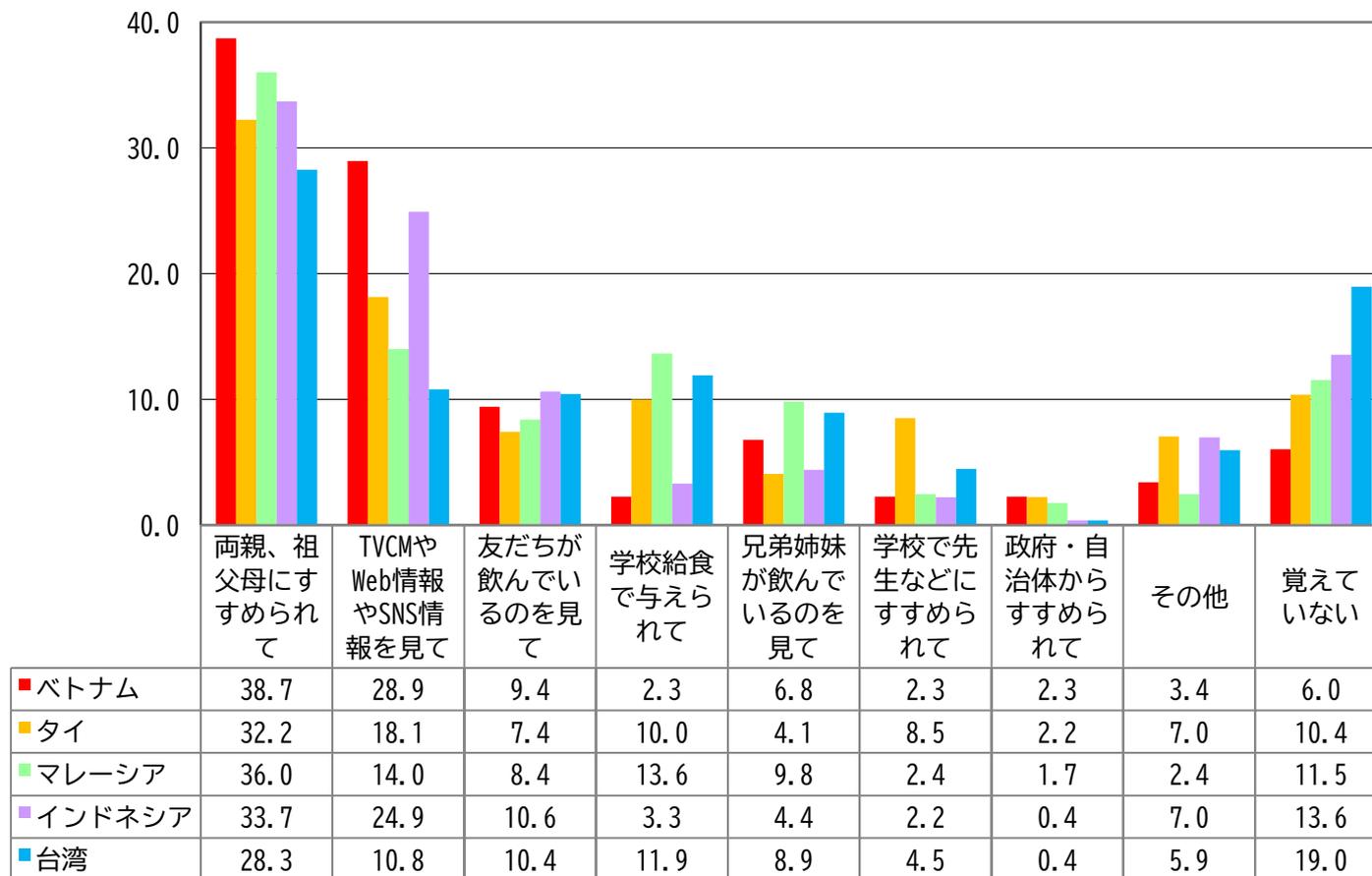
ベトナム N=266/272
 タイ N=270/268
 マレーシア N=286/286
 インドネシア N=273/269
 台湾 N=269/239

- ✓ 5カ国・地域いずれも、「家」では味なし牛乳の方がよく飲まれている。
- ✓ 一方、それ以外の場所では、味付き牛乳の方がよく飲まれがちである。

◆ 味付けしていない牛乳を初めて飲んだ時について

【質問】

あなたご自身が、味付けしていない牛乳をはじめて飲んだ時（飲んだきっかけ）をお知らせください。



- ✓ 5カ国・地域いずれでも、「両親・祖父母のすすめ」が飲むきっかけとなっているケースが多い。加えて、ベトナムやインドネシアでは「メディア接触」も多い。
- ✓ タイでは「学校の先生のすすめ」が多く、一方、ベトナムでは「学校給食」や「学校の先生のすすめ」が少ないが、これは学校給食の普及状況と関係していると思われる。

<牛乳類はどのくらい購入され、飲まれているのか>

- 調査した5カ国・地域のうち、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアにおいては、味なし牛乳、味付き牛乳ともに購買消費が盛んであり、いずれの国も、週に複数回以上購入するという回答が全体の半数以上を占めた。
- 味なし牛乳の購入は、調査した5カ国・地域いずれでも、味付き牛乳を上回る結果となり、特に、従来より味付き牛乳が主流とされてきた東南アジア諸国においても、味なし牛乳の消費が拡大している状況が明らかとなった。
- 学校給食が始まっているタイでは、給食時に牛乳を飲んだり、学校の先生が牛乳の飲用を勧めるといった行為が、今回調査を行った20～30歳代の若者による牛乳の飲用機会を増やしている。一方、学校給食が始まっていないベトナムでの牛乳の飲用頻度の増加は、学校での食経験では理由づけられないものであり、若い世代において積極的な牛乳の飲用意識が生まれていることがうかがえる。

<牛乳類はどのくらい購入され、飲まれているのか>

- ▶ ベトナムやインドネシアでのテレビCMやキャラクター戦略によるメディア接触の要因が、味なし牛乳の飲用のきっかけとなっている結果が得られており、今後こうした傾向が続く可能性がある。
- ▶ 一方、東南アジアでは、子供の肥満や、糖尿病といった生活習慣病が増えており、健康意識の高まりによって、甘味が付いた牛乳を控え、味なし牛乳を選択するといった要因も、味なし牛乳の消費を押し上げる結果につながっていると考えられる。
- ▶ 牛乳類の飲用のタイミングは、起床から朝食時、および夕食後から就寝前に味なし牛乳を飲用し、朝食後から昼食を挟んで夕食時までには味付き牛乳を飲用していることが明らかとなった。起床から朝食までの間で、ベトナムや台湾の結果が低く出ている結果については、朝に豆乳を飲むという中国系の習慣の影響が表れている可能性がある。
- ▶ 飲用のタイミングの結果と関連して、比較的、家（自宅）では味なし牛乳をコップに入れて飲用し、家以外の場所では小容量パックの味付き牛乳が飲用されているようである。

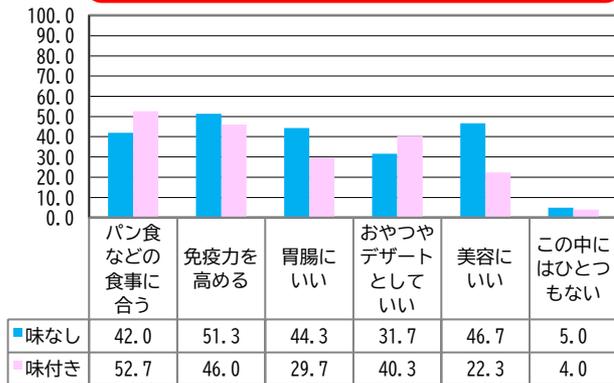
2. 牛乳類への意識

◆ 牛乳類への意識について

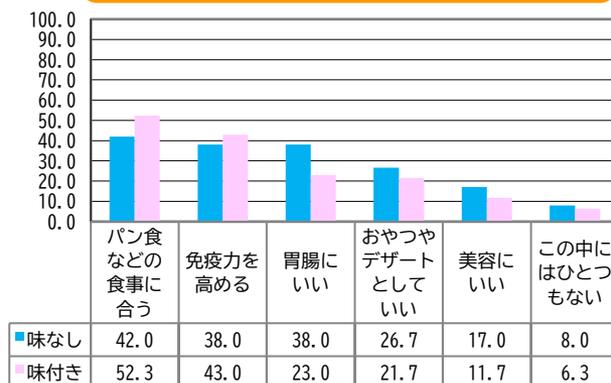
【質問】

いま現在、あなたご自身が、味付けしていない牛乳／味付き牛乳について、当てはまると思うことをお知らせください。

ベトナム



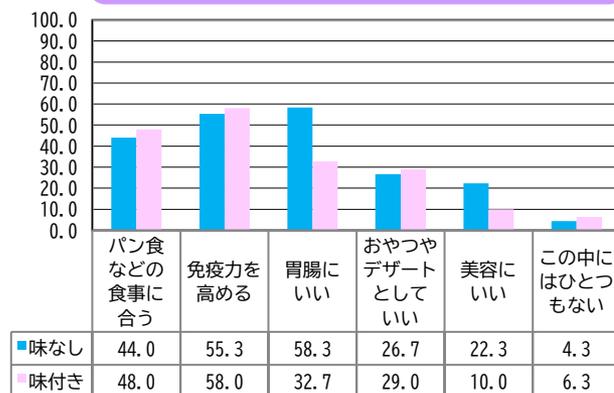
タイ



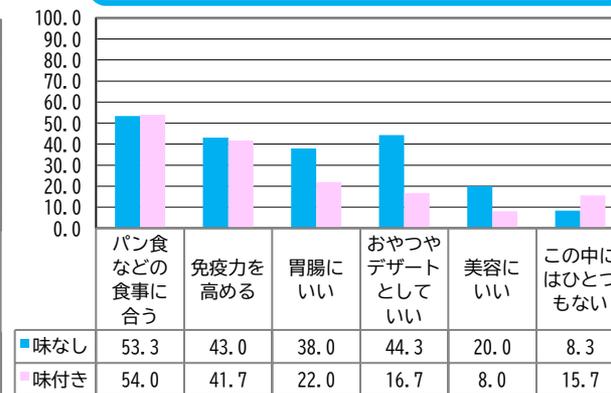
マレーシア



インドネシア



台湾



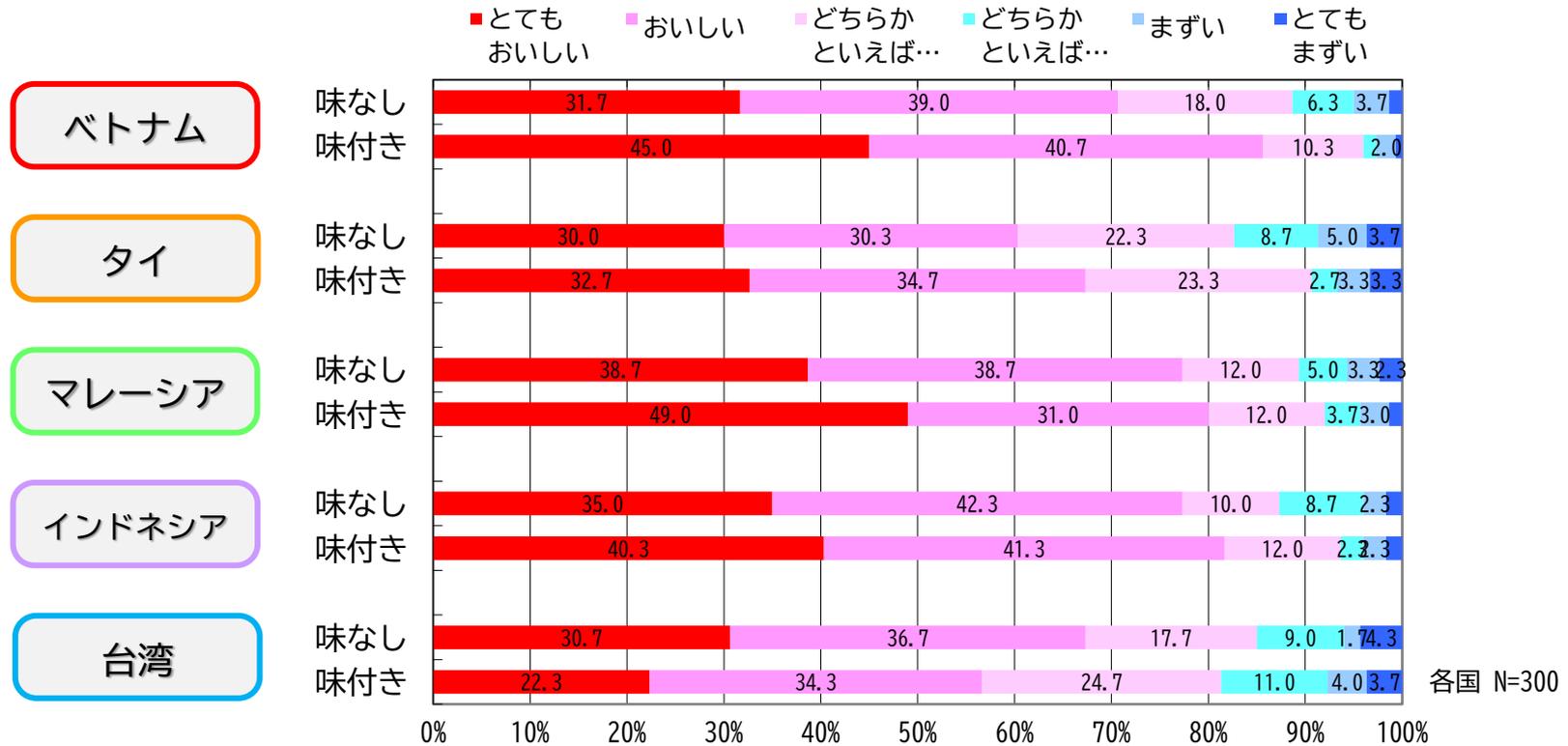
各国 N=300

- ✓ 5カ国・地域すべてで、味なし牛乳の方が「胃腸にいい」「美容にいい」と思われている。
- ✓ 「免疫力」については、どの国も味なし牛乳と味付き牛乳との差は大きく変わらない。
- ✓ ベトナムとタイでは、味付き牛乳の方が「食事に合う」と感じているが、その以外の国では差がない。
- ✓ ベトナムとインドネシアでは、味付き牛乳の方が「デザートにいい」と感じているが、それ以外の国は逆である。

◆ 牛乳類のおいしさについて

【質問】

いま現在、あなたご自身は、味付けしていない牛乳／味付き牛乳のことを、おいしいと思いますか、まずいと思いますか。

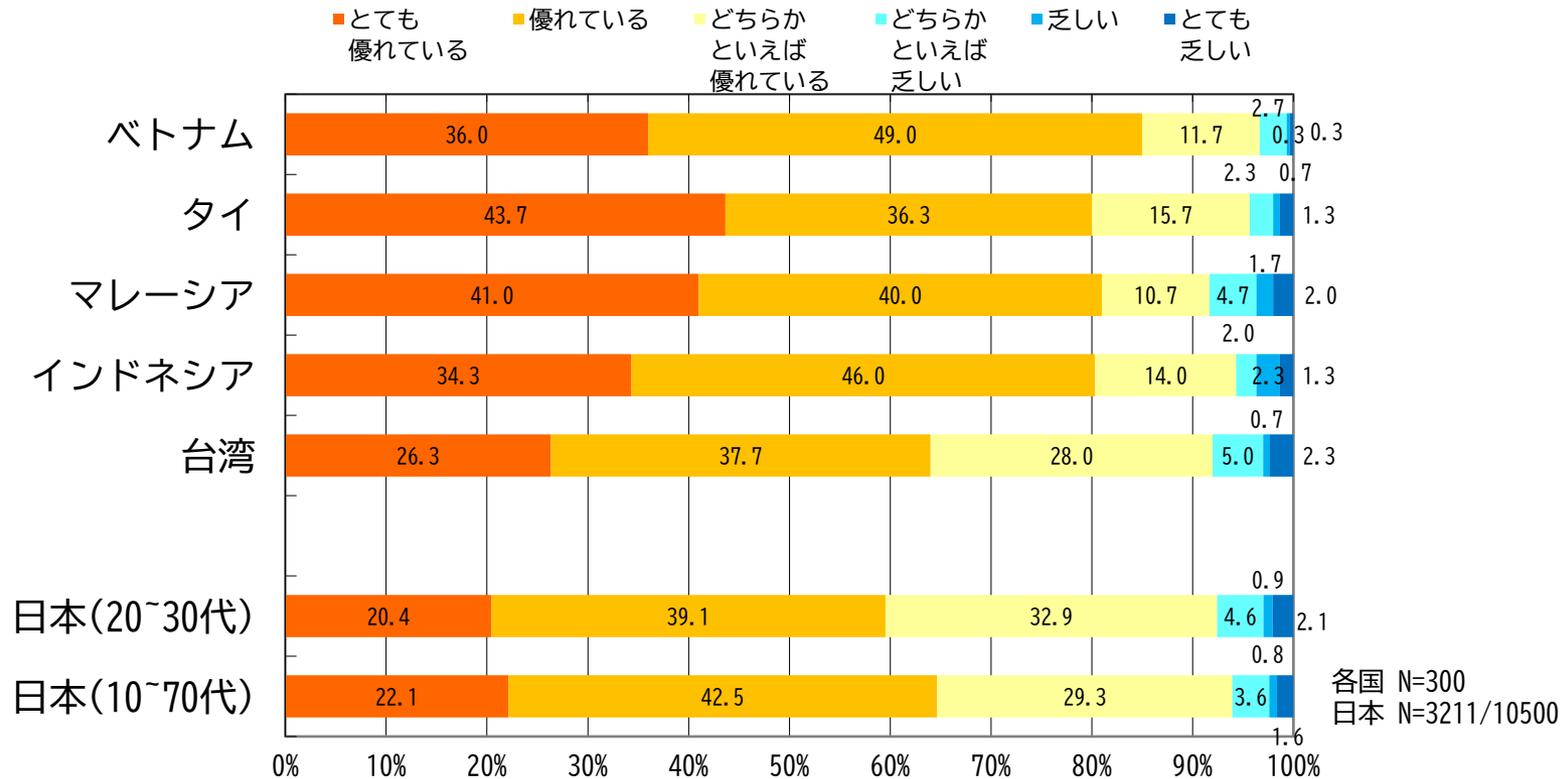


- ✓ 5カ国・地域のなかで、台湾だけは味付き牛乳よりも味なし牛乳の方を美味しいと感じているが、それ以外の国は味付き牛乳の方を美味しいと感じている。

◆ 牛乳類が栄養に優れているかについて

【質問】

いま現在、あなたご自身は、牛乳類が、栄養に優れていると思いますか、栄養に乏しいと思いますか。

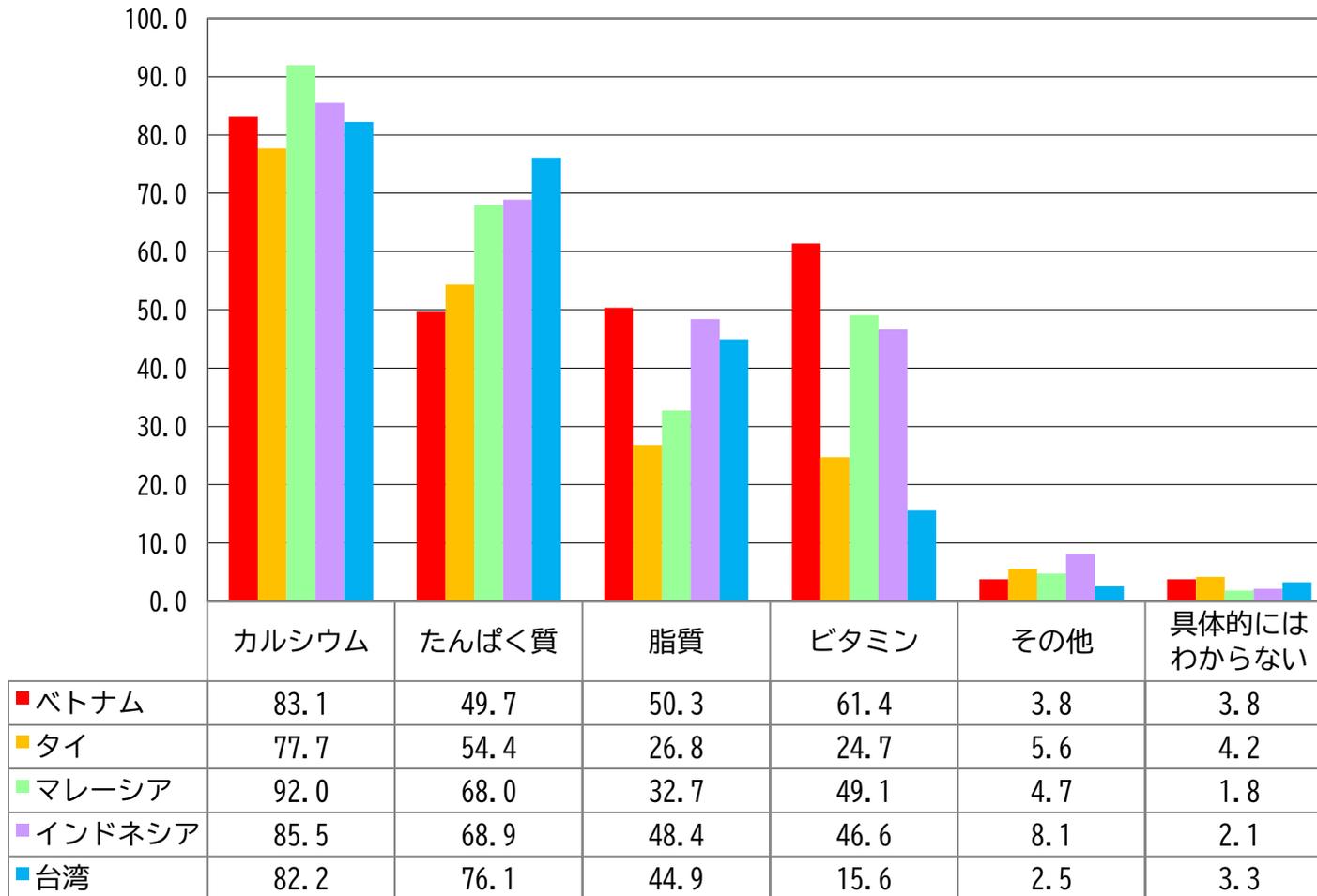


- ✓ 5カ国・地域いずれでも、牛乳類が栄養に優れているという認識が日本より強く、なかでもタイやマレーシアでは「とても優れている」の割合が4割を超えている。

◆ 牛乳類で優れていると思う栄養について

【質問】

いま現在、あなたご自身は、牛乳類において、優れていると思う栄養をお知らせください。



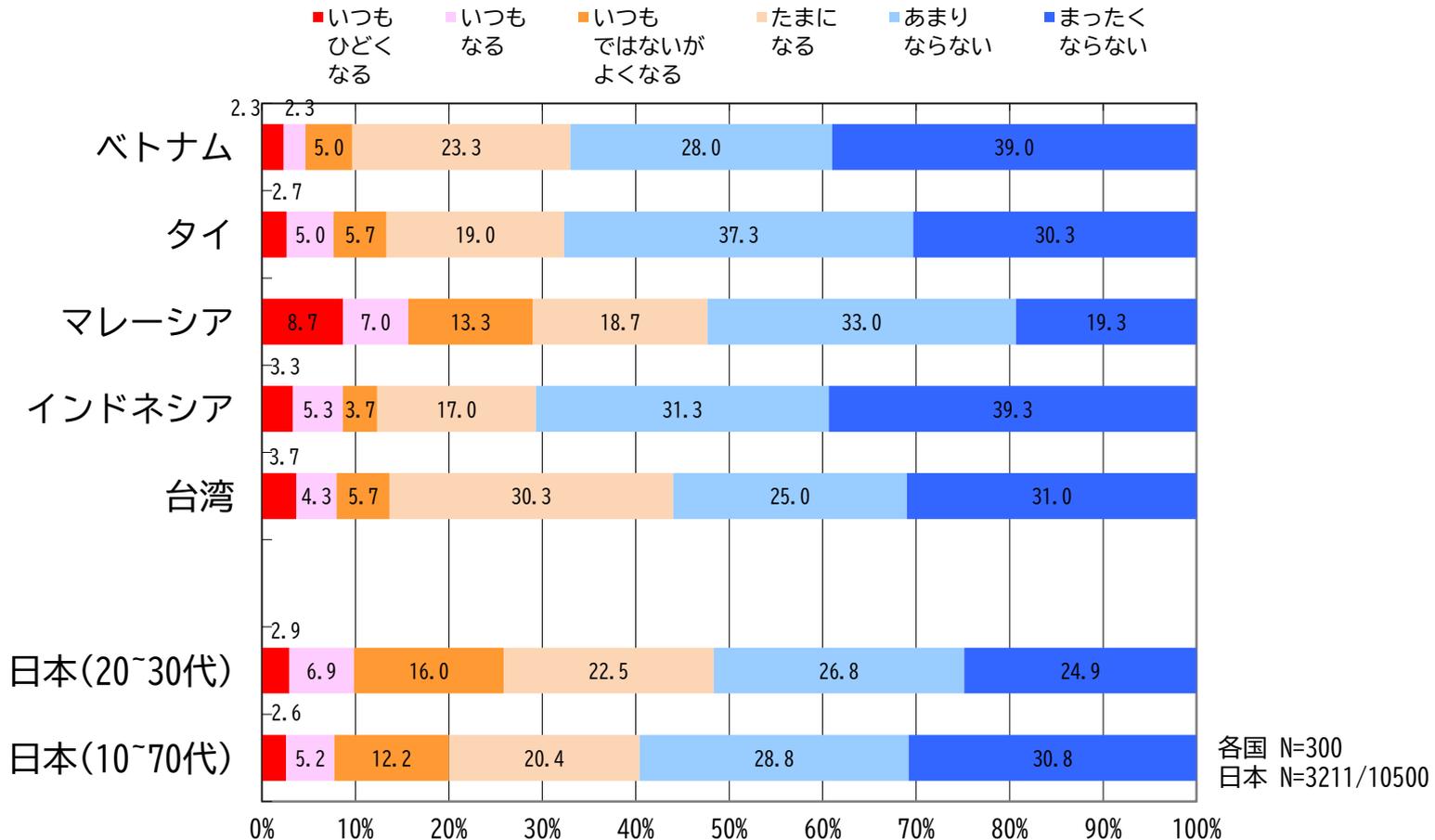
ベトナム N=290
 タイ N=287
 マレーシア N=275
 インドネシア N=283
 台湾 N=276

- ✓ 牛乳類について優れていると思う栄養は、5カ国・地域ともに「カルシウム」が最も多くなっている。「たんぱく質」は台湾が最も多くなっていて、「脂質」や「ビタミン」はベトナムが最も多くなっている。

◆ 乳糖不耐症への意識について

【質問】

あなたご自身は、普段、牛乳類を飲んで、お腹などの調子が悪くなることがどれくらいありますか。



- ✓ 5カ国・地域のなかで、乳糖不耐症への意識が最も高いのはマレーシアである。マレーシアは日本に比べても、意識が高い。

<牛乳類に関する意識について>

- 東南アジアにおける牛乳類への意識について、味の有無に関連して、味なし牛乳は健康機能を目的とした食品、味付き牛乳は嗜好品的な食品という印象があると考えられる。
- 調査した5カ国・地域ではいずれも、味なし牛乳は、「胃腸にいい」「美容にいい」という回答が多く、一方で、味付き牛乳は、「食事に合う」「デザートにいい」といった回答があった。
- また、味付き牛乳の方が美味しいという意識も強い。アジアにおける牛乳普及の歴史は、甘い味から無味へ移行していく流れがあることが知られており、特に東南アジアにおける牛乳類の文化・習慣においては、いまだに味付き牛乳が中心にあることの表れであるとも考えられる。

<牛乳類に関する意識について>

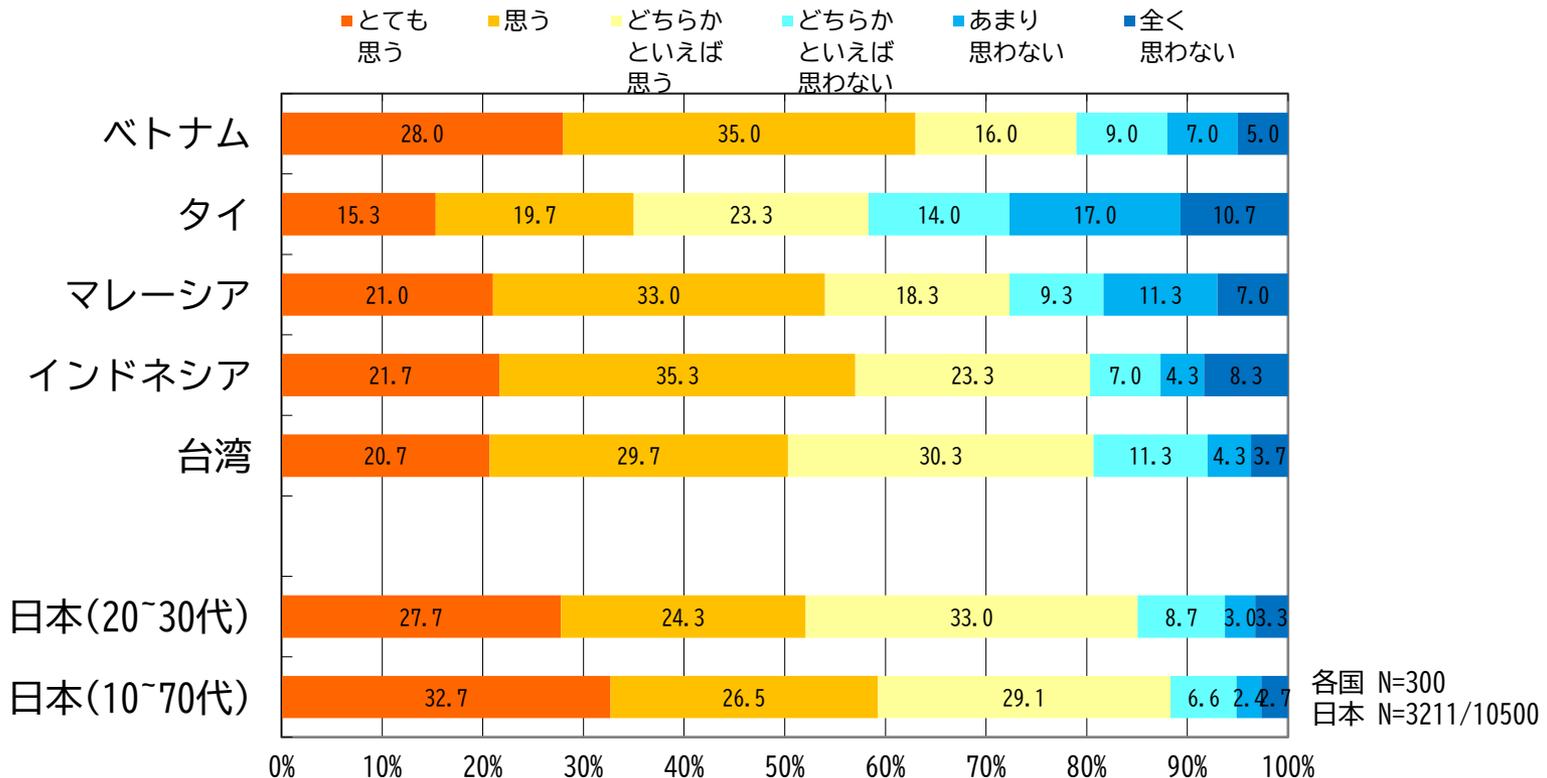
- 牛乳類が栄養に優れているという認識は、調査した5カ国・地域いずれでも日本より強く、なかでもタイやマレーシアでは「とても優れている」という認識が4割を超えている。両国では学校給食での牛乳利用が定着しており、食育活動とも相まって、牛乳の栄養面への理解が浸透してきていると考えられる。
- 牛乳類で優れている栄養は、調査した5カ国・地域いずれでも、カルシウム、タンパク質、脂質、ビタミンが摂取できるという認識がある。
- 牛乳と乳糖不耐症との関係については、5カ国・地域のなかで、マレーシアが乳糖不耐症の意識が最も強い結果となった。

3. 国産優先意識と酪農家への共感意識

◆ 牛乳類に関する国産優先の意識について

【質問】

普段、自分で飲んだり家族に飲ませる牛乳類について、あなたは「外国産より価格が高くて、国産を優先したい」と、どれくらい思いますか。

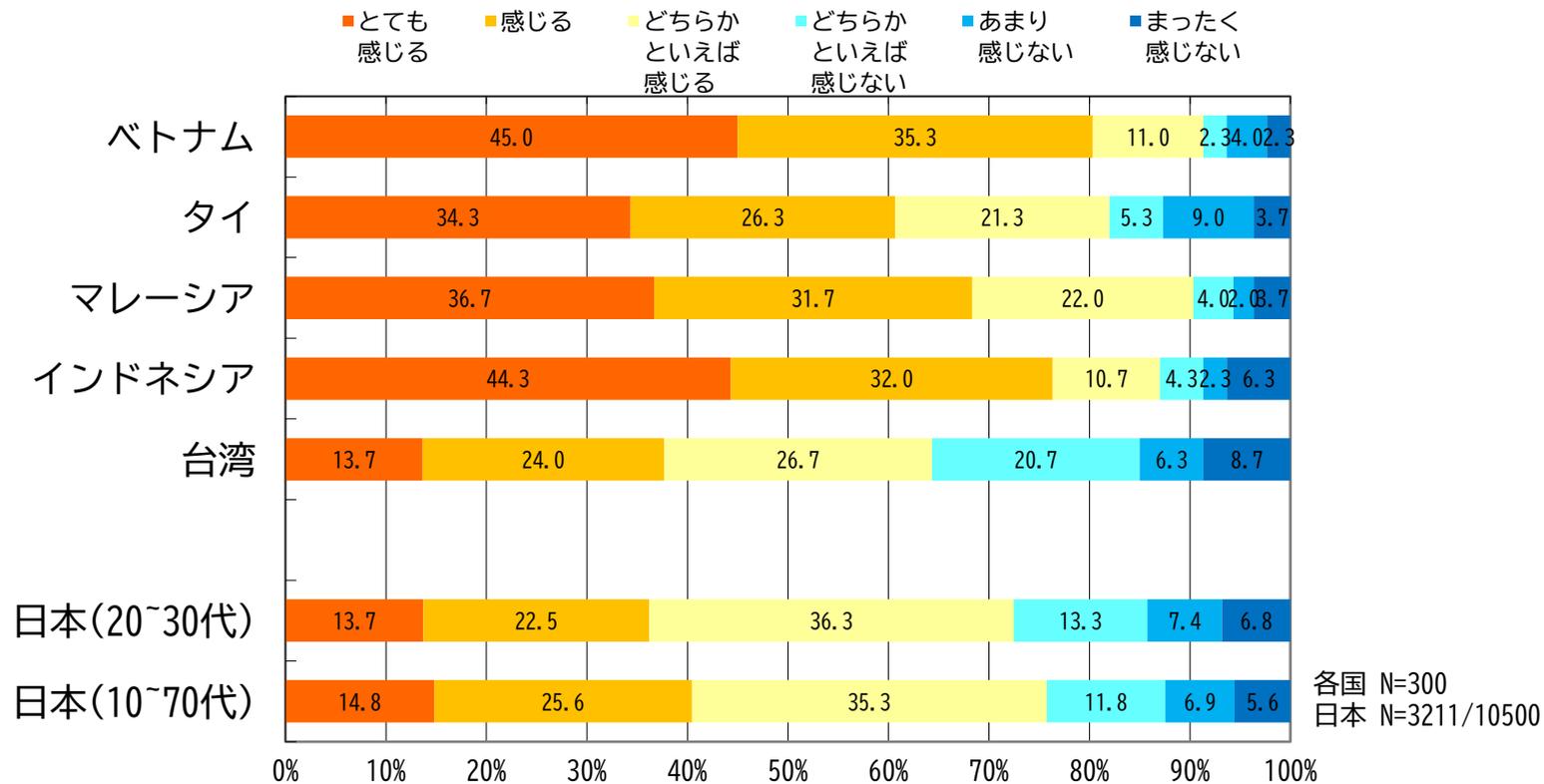


- ✓ 5カ国・地域のなかで、牛乳類の国産優先意識が最も高いのはベトナムである（ベトナムのそれは日本と比べてもほぼ同程度）。
- ✓ その一方で、タイは牛乳類の国産優先意識が特徴的に低い。乳製品は輸入品であるとの認識が強い可能性がある。

◆ 酪農家への共感意識について

【質問】

乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、あなたは「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちをどれくらい感じますかか。



- ✓ 5カ国・地域のなかで、酪農家への共感意識が高いのはベトナムとインドネシアである。
- ✓ その一方で、台湾は酪農家への共感意識が特徴的に低い（台湾の酪農家への共感意識は日本と同程度）。
- ✓ 東南アジアでは、牛乳類の需要増加にともない、新しい農業として、酪農への就農希望が増えていることとも関連する可能性がある。

<国産優先意識と酪農家への共感意識について>

- 牛乳類の国産優先意識は、調査した5カ国・地域のなかでベトナムが一番高い結果となった。ベトナムは調査国のなかで唯一の社会主義国であり、このことも影響している可能性がある。
- 一方、タイは国産優先意識が最も低い結果となった。タイにおいては、表1に示すとおり、国内生産量ではすべての需要を賄うことができないことから、不足分は輸入により需要を満たしている、といった事情が影響しているものと考えられる。

表1 タイの牛乳・乳製品の需給動向 (2018年)
単位：千トン

生産量	輸入量	輸出量	消費量
1,233	1,594	282	2,545

出展：畜産の情報、2019年、10月号、第88頁

資料：タイ農業協同組合省農業経済国、FAO「FOOD OUTLOOK」

注：生乳換算。消費量は「生産量+輸入量-輸出量」で算出

- 酪農家への共感意識は、東南アジアの4カ国で高く、とりわけベトナムやインドネシアで高い結果となっている。牛乳乳製品の消費の拡大が、生産者への親しみや感謝といった意識につながっている側面もあるものと考えられる。

【本調査に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 Jミルク マーケティンググループ
東京都千代田区神田駿河台2-1-20 お茶の水ユニオンビル5階
TEL 03-5577-7494



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)